

○課題発見力について

※文献を整理した、嶋が理解しているものであり、県や指導主事としての公式な考えではない。

企業の求める人材像調査（経済産業省 2007）

- ・若手社員に不足が見られる社会人基礎力
 - 主体性 …51.2%（の企業が不足していると感じている）
 - 課題発見力…45.0%
 - 創造力 …44.2%
 - 働きかけ力…41.1%

※子どもたちは答えのない世界へ

背景

- ・中教審(2008)…子どもたちが**知的好奇心**や探求心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察・実験を行うことにより、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的な認識の定着を図り、科学的な見方や考え方を養う。
- ・小田切真（常葉大学）(2009)…子どもが**自ら課題を発見するとともに、それを主体的に解決していくこと、それが理科教育の目的の1つであることは間違いない**
(そのために)
- ・小田切(2009)…教員が直接課題を与えるのではなく、**あたかも子どもが課題を発見したような場をつくること**

○問題解決の過程で「課題発見力」を育成するために

- ・倉澤壽之（白梅学園大学）(1991)…

問題の解決は簡単にできない。問題を生み出せる子、問題を見つける子、問題をたずねる子、問題発見者としての子どもを育てることが重要である。

（問題解決の能力が、問題解決の過程を経験する中で、育成されたとしても、問題解決を始めるための問題発見は容易ではない。）

「問題」…現象や事象そのもの

「課題」…当事者にとって解決すべきもの

（私たちが気づいているいないにかかわらず、「問題」は存在し、それに気づき**解決すべきものとして認識**したときに「課題」になる。）

- ・生田純一（福岡教育大学）・丸野俊一（九州大学）(2006)…

質問表出までにいたる認知的なプロセスを、

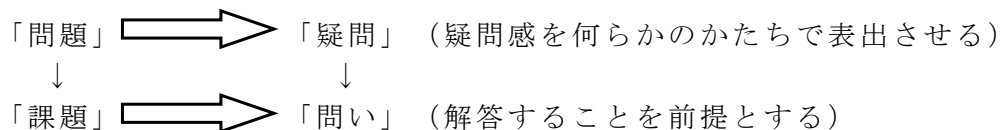
「疑問感の生起」→「質問生成」→「質問表出」とする。

（疑問感を何らかの形で表出させることが「問題」を自己の「課題」として認識するための第一歩）
↓

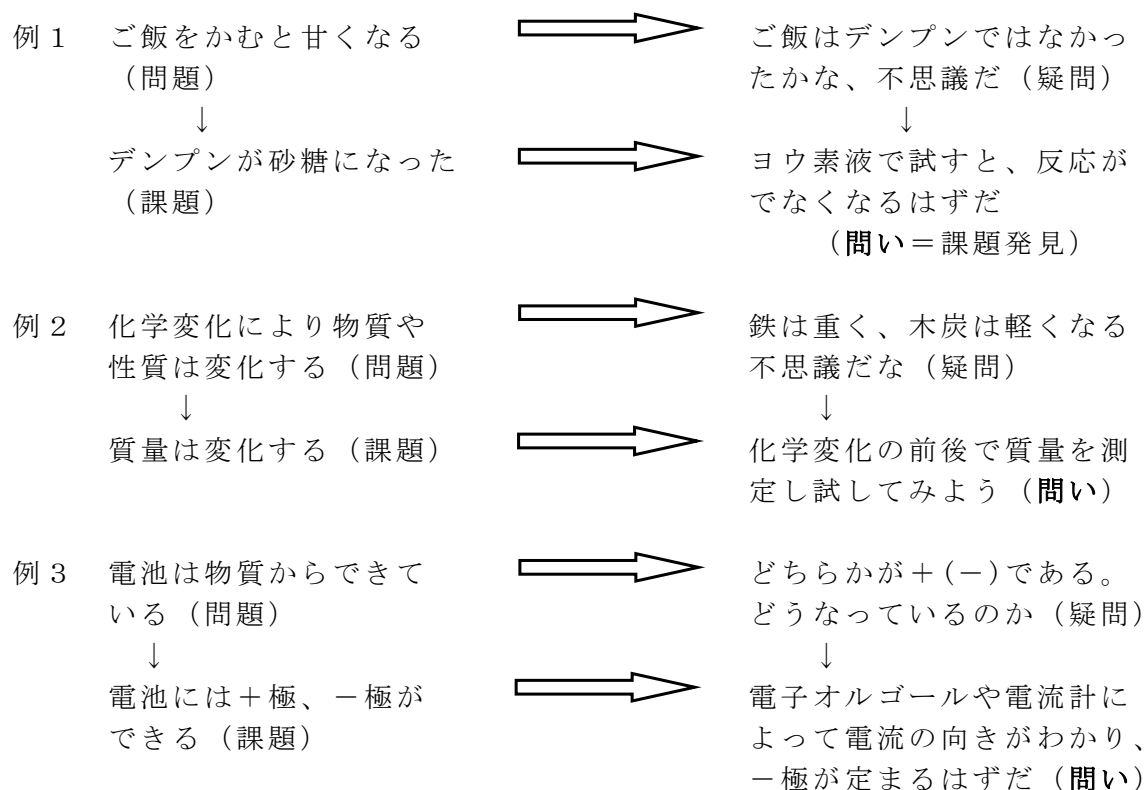
疑い、驚き、無知、当惑、無理解、不確かさ、困惑といった気持ちを含む質問生成の前提条件となる心理的な状態

・ 荻谷剛彦（オックスフォード大学）（1996）…

そのままにしておくことができる「疑問」を、解答することを前提にした「問い」として表現する



※自然や授業内容から「問い」が出ることが「課題発見力」である（仮説）



※課題発見

- ・ 答えがない、答えがいっぱいある課題への対応
- ・ 個人の規準づくり（「ものさし」づくり＝「～であれば…であろう」）
交流の場（個人のものさしの比較）を通じ、1本で試してもよいし、数本で試してもよい。違っていたら新しいものさし（課題）へ

注）ここでいう「課題」「問題」は、本時の目標や演習などとは同等ではない